

編 集 後 記

旭 正 一

今回の百周年記念誌は、教室の歴史に加えて、自遠会会員の思い出の文集を中心にまとめました。会員全員に原稿募集の呼びかけを送り、それに応じて送られて来た原稿を、筆者の卒業年次順に配列しました。順々に読んでゆくと、教室の裏面史が、おのずから浮かび上がってくるようです。さらに、座談会を2つおこなって、それを補強することにしました。しかし、100年史の前半を実体験から語れる人はすでにないので、その点を補充する意味で、50周年記念の座談会を、昭和30年の「皮膚と泌尿」から再録しました。

思い出の写真の部は、個人的なスナップをもっと載せたいという気持ちがありましたが、会員の皆さんの手持ちの写真を広く集める手段がなく、これくらいで妥協せざるを得ませんでした。ほとんど私一人で編集作業をやったので、こういった点には限界があったようです。

それでも、まずは立派な記念誌が出来たと、いちおう満足しています。50年後、100年後に、昔の皮膚科教室をしのぶ手がかりの役を、立派に果たしてくれることでしょう。

(平成18年3月22日)
